

保険・年金 フォーカス

【アジア・新興国】

ベトナム生命保険市場(2021年版)

保険研究部 常務取締役 研究理事 松澤 登

(03)3512-1866 matuzawa@nli-research.co.jp

1—はじめに

ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）は東南アジアに位置する人口 9762 万人（2020 年）¹の新興国である。その面積は 32 万 9241k m²であり、日本の約 88%である。

名目 GDP 総額は 3661 億ドル²、一人当たり名目 GDP が 3717 ドルで、東南アジアでベトナムの 7 割程度の人口を持つタイの約 5 割程度である。

新型コロナ前の実質 GDP 成長率の伸びについてだが、2020 年から新型コロナ禍による影響がベトナムにも及び、名目 GDP 成長率は 2020 年が前年比 2.91%増と鈍化した。2021 年も前年比 2.56%増と、平均 6-7%増を維持していた新型コロナ以前の成長率を取り戻せていない。

ベトナム経済はこのところ農林水産業中心から工業およびサービス業へと重心を移してきた。ただ、新型コロナ禍でサービス業の成長が鈍化した一方で、農林水産業、工業は比較的堅実な成長を見せた。各業態の GDP 増加率であるが、ベトナム統計総局の資料によれば、農林水産業は前年比 3.27%の増加であり、工業・建設業は前年比 3.58%増加である。他方、サービス業は前年比 1.57%増にとどまった。新型コロナ禍にもかかわらず、輸出入は好調を続け、輸出額は 3361 億ドルで前年比 14.2 増となり、輸入額は 3328 億ドルで、同じく 22%増となり、輸出入額の合計は 6690 億ドルとなった。

失業率は全体で 3.2%と、継続して低下傾向にあった昨年の 2.26%から一転悪化することとなった。なお、新型コロナの影響についてであるが、ベトナムでは 2021 年、デルタ株の感染第四波を受けた。政府は「安全、柔軟な適応および効果的な新型コロナ管理」政策を実施し、当初の経済計画目標を達成できなかったものの、マクロ経済は安定し、インフレも低位（前年比 1.84%増）に維持された。

本稿ではベトナム財務省保険監督部が発行した 2021 ベトナム保険市場年次レポート³のデータを元

¹ 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html#section1> 参照

² 以下、本文の各種数値はベトナム統計総局の数値を引用。

<https://www.gso.gov.vn/wp-content/uploads/2022/08/Sach-Nien-giam-TK-2021-1.pdf>

³ 「The Annual Report of Vietnam Insurance Market 2021」ベトナム財務省 HP

https://mof.gov.vn/webcenter/portal/cqlgsbh/pages_r/l/chi-tiet-tin-cuc-quan-ly-giam-sat-bao-hiem?dDocName=MOFUC

にベトナム生命保険市場について解説を行う。以降の数字、図表は同レポートよりの引用である。

2—保険市場の概況

1976年の南北ベトナム統一時、南ベトナムにあった既存生保は消滅した。以降、1964年に当時の北ベトナムで設立された国営保険会社であるベトナム保険会社（現在の Bao Viet Holdings）のみが、伝統的損害保険商品に限定して販売するという一社独占体制が長らく続いた。政府は現在も共産党一党独裁制が続いているが、1986年に開放政策であるドイモイ政策が打ち出された後、保険市場の開放が進むこととなった。

保険市場の改革により、1994年に民間保険会社の設立が許容され、1995年には生命保険の販売が再開された。また、1996年には外資系保険会社とベトナム国内社の合弁会社の設立が、1999年には外資系保険会社の100%子会社設立が認められるようになった。これを受け、1999年に Prudential と Manulife が参入し、以降、外資の参入の本格化が進んだ。2021年末の生命保険会社数は19社である。

市場規模としては、収入生命保険料が年間159兆2220億ドン（8845億円（2022年12月の円ドン為替レートの概算である1円=180ドンで計算、以下同じ））である。ベトナムにおける生命保険の市場浸透率（Insurance Penetration、対GDP保険料収入）は上昇し続けており、2.47%（2020年2.08%）となった。

3—新契約の状況

ベトナムにおける生命保険契約の伸びは大きく、2021年の生命保険新契約件数は3,559,973件で前年比11.94%増となった。うち、個人保険が3,559,973件、団体保険が425件（加入者は176,536人）である。団体保険の規模は大きくない。

新契約について、主契約に係る収入保険料は44兆6600億ドン（2481億円）で前年比20.5%増となった。付保保険金額は1523兆1340億ドン（8兆4618億円）で前年比12.3%増となった。個人保険の主契約平均付保保険金額は4億2160万ドン（234万円）となっている。団体保険の平均付保保険金額は一団体当たり527億ドン（2億9277万円）で、加入者一人当たり直すと1億2690万ドン（70.5万円）となっている。

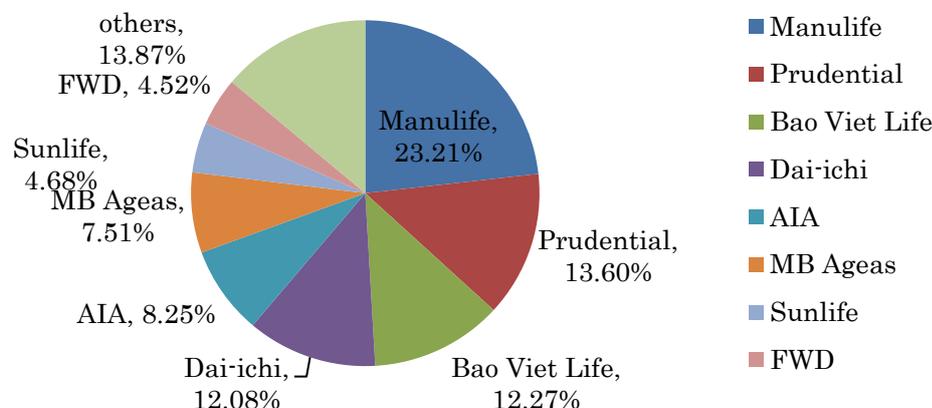
新契約の会社別マーケットシェア（新規収入保険料ベース）であるが、収入保険料ベースで順に、Manulife（23.21%）、Prudential（13.60%）、Bao Viet Life（12.27%）、Dai-ichi（第一生命ベトナム、12.08%）、AIA（8.25%）、MB Ageas（7.51%）、Sunlife（4.68%）となった（次頁図表1）。

新契約シェア状況の推移を見ると、2018年からシェアトップを維持する Manulife が前年比3.5%増と順調にシェアを伸ばした。他方、2020年に二位だった Bao Viet Life は3%減らして三位に順位を落とし、Prudential が二位に浮上した。

[M245144](#) 参照。

【図表 1】 会社別新契約シェア

2021年度会社別新契約シェア (新規収入保険料ベース)

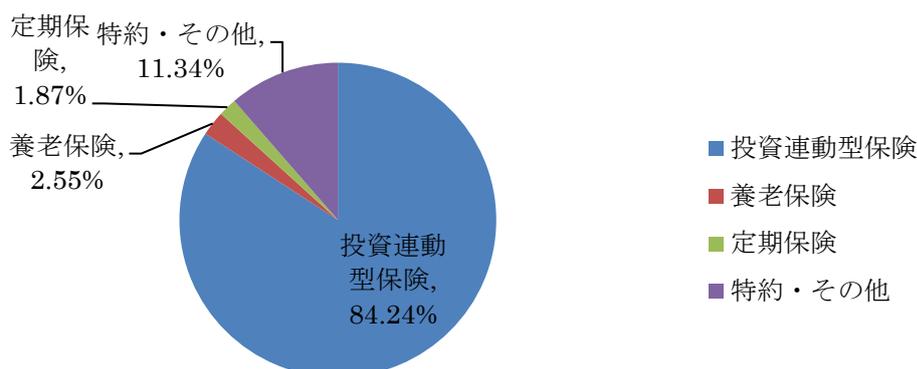


新契約の商品状況を見ると、これまでも収入保険料ベースでは貯蓄・投資性の商品がほとんどであり、特に養老保険と投資連動型保険の販売が活発であった。そして 2021 年には販売される商品が投資連動型保険にほぼ集中する形となった。

具体的には投資連動型保険(investment-linked products)⁴が 84.24%、養老保険(endowment)が 2.55%となっている。他方、保障性の強い保険としては定期保険が 1.78%となっている(図表 2)。

【図表 2】 商品別新契約シェア (新規収入保険料ベース)

2021年度商品別新契約シェア (新規収入保険料ベース)



付保保険金ベースで見ても投資・貯蓄性保険がほとんどである点は同様であり、投資連動型保険が 90.53%、養老保険 1.18%、定期保険が 5.11%となっている。定期保険は販売件数が 1,057,434 件なの

⁴ ユニットリンク保険とユニバーサル保険とをまとめて投資連動型保険として分類している。

で平均的保険金額は 7358 万ドン（40 万円）程度であり、小口契約が多い。

4—保有契約の状況

生命保険の保有契約は、総件数で 13,198,726 件、前年比 13.47%増であり、内訳として個人保険が 13,197,893 件、団体保険が 833 件（団体保険の加入者は 334,783 人）となっている。

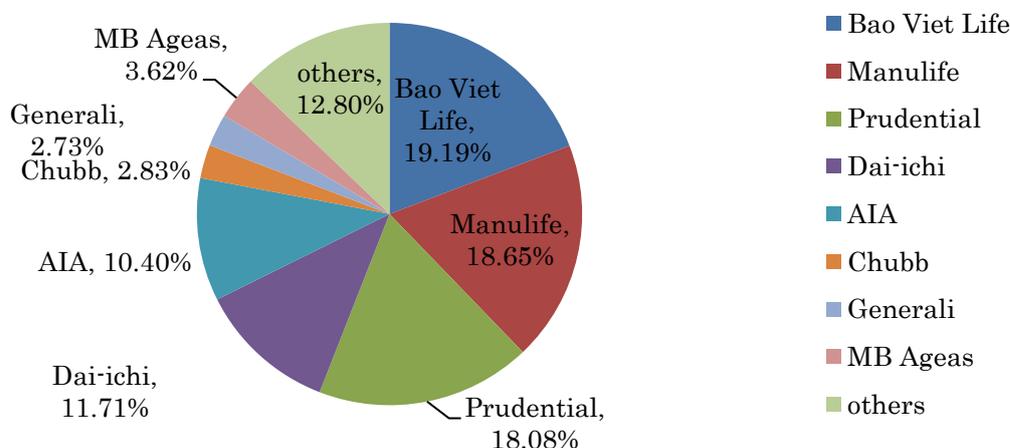
保有契約について、上述の通り、収入保険料が年間 159 兆 2220 億ドン（8845 億円）で、前年比 21.76%増となった。また、付保保険金額は 4725 兆 3310 億ドン（26 兆 2518 億円）で前年比 24.70%増となった。

保有契約の収入保険料ベースの会社別マーケットシェアであるが、新契約シェアの増減にあわせて保有契約シェアはそれぞれ変動し、上位社の順位の変動が生じた。

まず、老舗である Bao Viet Life(19.19%)は首位を維持したものの、二年連続で 2%程度ずつシェアを落としている。Prudential(18.08%)は対前年でシェアを落とし、2021 年は 3 位に後退した。代わりに新契約シェアトップの Manulife(18.65%)が 2 位に浮上した。以下、Dai-ichi(11.71%)、AIA(10.40%)、Chubb (2.83%)、Generali(2.73%)と続く(図表 3)。

【図表 3】会社別保有契約シェア

2021年度会社別保有契約シェア (保有契約収入保険料)

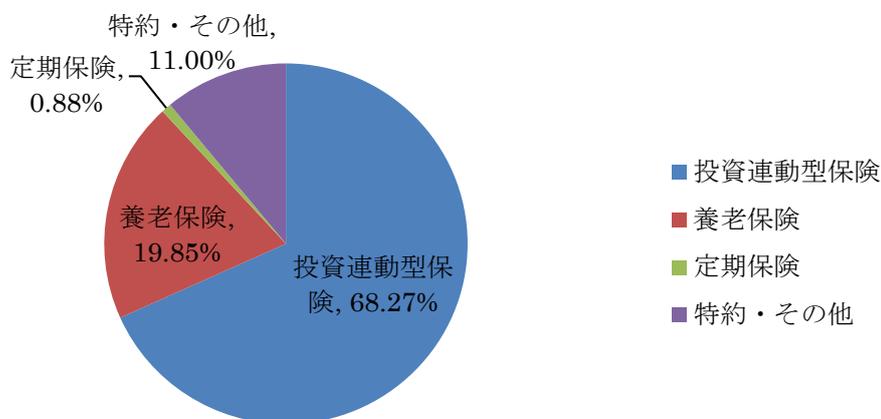


保有契約を商品別に見ると収入保険料ベースで投資連動型保険が 68.27%、養老保険が 19.85%、定期保険が 0.88%である(次頁図表 4)。

付保保険金額ベースで見ると、保有契約は、投資連動型保険が 88.47%、養老保険が 7.45%となっており、投資連動型保険における高額加入が多いものと思われる。

【図表 4】商品別保有契約シェア（収入保険料ベース）

2021年度商品別保有契約シェア （保有契約収入保険料）



なお、保険金の支払状況（解約返戻金払戻を含む）であるが、総計で 32 兆 4410 億ドン（1802 億円）、前年比 29.95%増となっている。ほとんどの給付は養老保険と投資連動型保険の満期保険金等である。また、責任準備金は 431 兆 2380 億円（2 兆 3957 億円）、前年比 27.76%増となった。

5—販売チャネル

販売チャネルとしてはエージェント（個人、法人）、ブローカー、銀行窓販などがあるが、近時は生命保険会社と銀行との業務提携による銀行窓販が活発である。法規制上においては、2020 年には保険のコンサルティングには資格を要することとするなど、保険販売における事業の環境整備が行われている。

2021 年において、エージェントについては、個人エージェントが増加した一方で、法人代理店に属するエージェント数は減少した。結果として、個人エージェント(営業職員等)と、法人に属するエージェントを足した数は 912,089 名に達し、前年比 1.86%増となった(図表 5)。

【図表 5】個人・法人エージェント数の推移

年	個人エージェント数 (名)	法人代理店		エージェント数 合計(名)
		代理店数(店)	エージェント数(名)	
2020 年	569,144	506	326,294	895,438
2021 年	668,744	574	243,345	912,089

6—おわりに

ベトナムの2022年の新型コロナ感染状況については、2022年3月に一週間の平均新規感染者数が20万人後半という波が来たものの、その後は落ち着きを取り戻している。その結果、ベトナム統計総局の数値によると実質GDPは2022年1Qが5.05%増、2Qが7.83%増、3Qが13.67%増（推計）と順調に成長を続けている。特に3Qにはサービス業が18.86%増と経済全体をけん引している。

本文で見た通り、生命保険事業は新型コロナの感染が拡大している中でも堅調な成長を続けてきており、今後とも生命保険の浸透率の向上が見込まれる。